

THE RECORD

2006.05
No.558



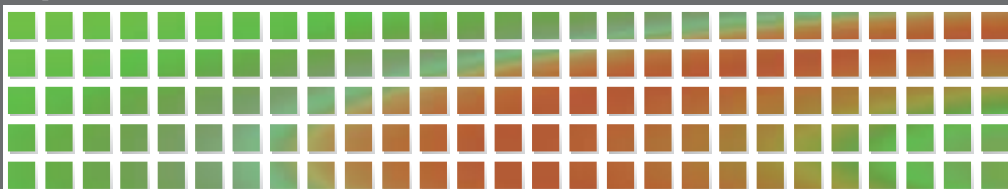
IFPI Report
2005年世界音楽売上

公正取引委員会へ再販制度弾力運用報告書を提出

平成18年度事業計画

社団法人 日本レコード協会

RIA
Recording Industry Association of Japan



IFPI Report

2005年世界音楽売上

今回の特集では、IFPI（国際レコード産業連盟）が3月に発表した2005年世界音楽売上の概要をご紹介します。

世界音楽市場の活性化をリードするデジタル・フォーマット

IFPIでは、初めてデジタル音楽売上のデータを組み込んだ世界音楽売上統計を公式発表しました。今回の統計で、インターネット音楽配信、携帯音楽が、全世界で成長を続けていることが確認されました。

レコード会社のデジタル音楽収入は、世界合計で4億ドル(2004年)から11億ドル(2005年)となり、ほぼ3倍増の成長を示しました。シングル・トラック・ダウンロード数は、インターネット音楽配信、携帯音楽の合計で、2004年の1億6,000万件から4億7,000万件にまで伸びました。デジタル音楽の発達した5大市場に名を連ねるのは、アメリカ、日本、イギリス、ドイツ、フランス。音楽売上全体が堅調な国々が、デジタル音楽売上でも上位を占めます。

世界デジタル音楽売上を概括すると、インターネット音楽配信と携帯音楽の比率は大体互角ですが、地域によってはその比率に大きな違いが出ています。日本やヨーロッパの一部で携帯音楽がデジタル売上の大部分を占める一方、アメリカ、イギリス、ドイツではインターネット音楽配信の売上比率が高くなっています。

現在、着うたは携帯音楽売上全体の87%を占め、同市場最大のコンテンツに成長しています。その一方で、携帯電話向け新サービス、着うたフルのダウンロードや音楽ビデオなどは、着うたの成長率を越えています(小売価格で180%の増加、着うたは120%の増加)。インターネット音楽配信市場は、世界的にシングルの売上が多く、同市場全体の86%に達しています。そして、このシングル・トラック・ダウンロードのビジネスをリードするのが、アップルのiTunesです。

パッケージを含めた全体的な状況

2005年の世界音楽売上(パッケージ、デジタルの合計)は、3%減少しました。レコード会社の収入ベースで約210億ドル、小売価格に換算すると概ね330億ドルになると推計されます。

シングル売上数量(パッケージ、デジタルの合計)は、世界全体で75%以上増加しました。シングル売上は、今やほとんどがデジタル・フォーマットによるもので、デジタル・シングル売上(インターネット音楽配信、着うたフル)は、シングル全体の75%を占めるまでに成長しています(2004年は45%)。

Contents

Special Feature

IFPI Report 2005年世界音楽売上..... 1

Special Report

公明党、「音楽関係10団体との要請懇談会」を開催..... 4

公正取引委員会へ再販制度弾力運用報告書を提出 5

平成18年度事業計画..... 11

Topics & Information 13

RIAJ Essay: 雑感: 携帯電話~着うた~そして... 15

レコードよもやまばなし 16

Monthly Production Report 17

Gold Album+...認定..... 18

■ デジタル音楽売上上位10カ国

| | デジタルマーケット | | | デジタル音楽売上内訳 | |
|---------|-----------|----------|--------|------------|-----|
| | USドル(百万) | 現地通貨(百万) | | インターネット | 携帯 |
| アメリカ | 636 | USD | 636 | 68% | 32% |
| 日本 | 278 | JPY | 30,587 | 9% | 91% |
| イギリス | 69 | GBP | 38 | 62% | 38% |
| ドイツ | 39 | EUR | 31 | 66% | 34% |
| フランス | 28 | EUR | 22 | 47% | 53% |
| イタリア | 16 | EUR | 13 | 31% | 69% |
| カナダ | 15 | CAD | 18 | 71% | 29% |
| 韓国 | 12 | KWR | 12,045 | 42% | 58% |
| オーストラリア | 7 | AUD | 10 | 41% | 59% |
| オランダ | 5 | EUR | 4 | 82% | 18% |

パッケージ売上は、金額（レコード会社収入）および数量ベースで、それぞれ6.7%と8%の減少となりました。CDアルバム売上は金額で6%、数量で3.4%減少しました。またDVD音楽ビデオは、金額で4.3%減少したものの、数量で横ばいとなりました。

マーケットの状況について、IFPIケネディ会長は次のようにコメントしています。

「世界の音楽市場は、購入の選択肢が多様化して広がりのある複合経済へ急成長しています。またデジタル音楽が好調な市場では、売上全般が堅調なことも、勇気づけられる事実です。日本ではデジタル売上がパッケージ売上の減少分を上回っていますが、他市場もこれに続くことを期待しています。パッケージ売上は、デジタルとパッケージ両方の海賊行為、他のエンタテインメント製品との競合、消費者のデジタル音楽へのシフトなど複合要因により、今年も減少しました。

2006年もインターネット音楽配信の成長と、合法デジタル音楽市場に多数の音楽ファンを引き込む新しい携帯音楽サービスの台頭を期待しています。現在IFPI会員社は、積極的にライセンスを提供するなど、デジタル音楽販売を推進しています。IFPIは、市場拡大につながる著作権法の整備や継続的な海賊撲滅運動に努め、今後もエキサイティングな新市場の成長促進に取り組んでいく考えです」

地域別動向

● 北米

アメリカの音楽売上は世界的傾向と同じく、インターネット海賊の影響により3%減少しました。しかし合法

デジタル音楽売上が、パッケージ売上の8.9%減をほぼ相殺しました。アメリカでの売上の上位曲は、ほとんどが2005年のヒット曲です。サウンドスキャンの調査では、上位100作品の総売上枚数は1億2,800万枚で、2004年より16.4%減少しました。

インターネット海賊の深刻な影響を受けるカナダ市場の売上も、3%縮小しました。Pollara社の調査では、インターネットでのファイル交換楽曲数は、毎月1億曲に達したと推定されています。

● ヨーロッパ

ヨーロッパ主要市場（イギリス、ドイツ、フランス）は、パッケージ売上の減少分をデジタル売上の増加が補い、好調を維持しました。ドイツは数年連続した減少が増加に転じました。デジタル音楽が市場を牽引するため、デジタル音楽が盛況な国のほうが市場全体も好調です。

ヨーロッパ全体のデジタル売上は倍増以上を記録し、特にイタリアとオランダでは4倍以上となりました。フランス、スペイン、オーストリアでは、携帯音楽売上がインターネット音楽配信の売上を上回りました。

■ フォーマット別売上高(百万USドル)

| | 2004年 | 2005年 | 増加率 |
|--------|--------|--------|------|
| CD | 18,109 | 17,019 | -6% |
| DVD | 1,610 | 1,540 | -4% |
| デジタル音楽 | 397 | 1,143 | 188% |
| シングル | 821 | 721 | -12% |
| その他* | 531 | 372 | -30% |

*カセット、LP、VHSその他

インターネット海賊は、ヨーロッパのいくつかの市場に業績低下をもたらし、オランダ(14%減)、スウェーデン(9%減)、ノルウェー(12%減)で顕著な影響が見られました。

● アジア

日本の音楽売上は、パッケージ売上の減少をデジタル売上がカバーし、微増となりました。日本は世界トップの携帯電話市場を持ち、携帯音楽がデジタル売上全体の91%を占めています(音楽売上全体の7%に相当)。2005年8月にはiTunesがサービスを開始し、日本にインターネット配信市場の転換期をもたらしました。

オーストラリアの音楽売上は激減しました。一方、2005年後半にデジタル・サービスがスタートしました。

(iTunesが10月にビジネスを開始したため、全体の3分の1以上が年末2カ月の売上)。パッケージ売上は金額で11%減少しました。

● ラテンアメリカ

ブラジルの音楽売上は、主に低価格帯と中間価格帯商品売上の激減、高い返品率の影響により、金額で12%減少しました。ブラジルのデジタル音楽市場は未成熟であり、影響力に欠けています。

継続的な海賊撲滅活動、低価格キャンペーンの拡大、数々のヒット作品の貢献により、メキシコの売上金額は10%以上増加しました。

■ 2005年世界各国の音楽売上

| | 収入 | | | | 小売金額 | |
|---------|----------|-------------|------|---------|--------|---------|
| | USドル(百万) | 現地通貨(百万) | 増加率 | デジタルの割合 | USドル | 現地通貨 |
| アメリカ | 7,012 | USD 7,012 | -3% | 9% | 12,269 | 12,269 |
| 日本 | 3,718 | JPY 409,845 | 1% | 7% | 5,448 | 600,497 |
| イギリス | 2,162 | GBP 1,189 | -3% | 3% | 3,446 | 1,895 |
| ドイツ | 1,457 | EUR 1,166 | 0% | 3% | 2,211 | 1,769 |
| フランス | 1,248 | EUR 999 | -2% | 2% | 1,990 | 1,592 |
| カナダ | 544 | CAD 659 | -3% | 3% | 732 | 886 |
| オーストラリア | 440 | AUD 576 | -10% | 2% | 674 | 883 |
| イタリア | 428 | EUR 343 | 0% | 4% | 669 | 535 |
| スペイン | 369 | EUR 295 | -5% | 1% | 555 | 444 |
| ブラジル | 265 | BRL 645 | -12% | 1% | 394 | 958 |
| メキシコ | 263 | MXP 2,863 | 10% | <1% | 412 | 4,487 |
| オランダ | 246 | EUR 197 | -14% | 2% | 431 | 345 |
| スイス | 206 | CHF 257 | -3% | 1% | 267 | 334 |
| ロシア | 194 | RUB 5,477 | -37% | - | 388 | 10,961 |
| ベルギー | 162 | EUR 129 | -7% | 2% | 262 | 209 |
| 南アフリカ | 159 | ZAR 1,010 | 10% | <1% | 254 | 1,618 |
| スウェーデン | 148 | SEK 1,107 | -9% | 2% | 240 | 1,795 |
| オーストリア | 139 | EUR 111 | -5% | 3% | 285 | 228 |
| ノルウェー | 133 | NOK 857 | -12% | 1% | 253 | 1,627 |
| デンマーク | 113 | DKK 679 | -2% | 1% | 180 | 1,080 |
| その他 | 1,387 | | -8% | 6% | 2,096 | |
| 合計 | 20,795 | | -3% | 5% | 33,456 | |

注) ●パッケージ売上は以下を含む:オーディオ(シングル、LP、カセット、CD、DVDオーディオ、SACD、MD)、および音楽ビデオ(DVD、VHS、VCD)。

●デジタル音楽売上は以下を含む:シングル・トラック・ダウンロード、アルバム・ダウンロード、音楽ビデオ・ダウンロード、ストリーム配信、オリジナル音源を利用したコンテンツ(着うた、待ちうた、着うたフル)、携帯電話への音楽ビデオ・ダウンロード、会員制サービス(MIDI形式の着メロおよびロゴや壁紙など音楽に関係しないコンテンツは含まない)。

●パッケージ売上はIFPI会員社より、デジタル音楽売上はメジャー4社よりそれぞれ報告を受けた。実際の市場規模に合わせるため、その他の部分は推計。

●小売価格は推定で、パッケージとデジタルを合算したもの。アメリカの推定小売価格は、希望小売価格を反映したもの。

●各地域および全世界の増加率は、2005年のIMF、米ドルの平均レートに基づいて算出している。

●IFPIが公表した国別の数字は、メジャー社の売上に基づいて市場規模の推定を行っていること、IFPIと各ナショナル・グループとの報告区分の相違などにより、各ナショナル・グループが公表した数字と異なる場合がある。

公明党、「音楽関係10団体との要請懇談会」を開催

4月5日、音楽関係10団体は、公明党が開催した「音楽関係10団体との要請懇談会」において、音楽用CDの再販売価格維持制度の擁護と音楽産業が直面している諸課題への理解と支援を要請しました。

冒頭、太田昭宏幹事長代行から「国としてどのように文化を育てていくかが重要であり、文化芸術振興基本法を制定しその育成に努めてきた。本日の懇談会では音楽文化に関わる課題についてご意見をお聞きし、それをしっかり受け止めて対応していきたい。音楽用CDの再販問題についても、文化の維持発展の観点で捉え、ヒアリングを行って結論を出したい」と挨拶がありました。

これに対し、音楽関係団体を代表して(社)日本音楽著作権協会の吉田茂理事長から、この日の要請懇談会開催と、文化芸術振興基本法の制定をはじめとする同党の文化政策への積極的な取り組みに謝意を表しました。

引き続き、音楽関係10団体から、以下の2つの項目に関する「要望書」を同党に提出し、各要請事項についての説明と要請を行いました。

1. 音楽用CDの再販売価格維持制度の擁護について

2月20日に知的財産戦略本部コンテンツ調査会によって公表された「デジタルコンテンツの振興戦略」における「音楽用CDを再販売価格維持制度の対象から除外することを検討する」との提言に対し、音楽関係10団体は強く反対する旨の緊急声明をコンテンツ調査会に提出したことを報告しました。

この緊急声明に基づき、当協会佐藤修会長が、「文化的視点の欠如」、「他の著作物との差別化の不当性」、「音楽CDの再販制度存続の弊害の説明不足」の3点を挙げ、音楽CDのみを再販制度の対象から除外することに合理的な理由がなく、引き続き音楽CDの再販制度が必要であると訴えました。

その後、(社)日本音楽著作権協会の岡田富美子理事、日本音楽作家団体協議会の川口真理事、日本レコード商業組合の矢島靖夫理事が、それぞれの立場から、音楽文化を支える音楽CDの再販の必要性を訴え、この制度の擁護を要望しました。

2. IT社会における音楽産業のビジョンについて

当協会佐藤修会長は、IT社会における音楽産業のビジョンとして、「音楽の創造サイクルを再構築し、日本を世界で最も豊かな音楽を享受できる文化大国にする」こと、そのために「適切な権利基盤を構築し、音楽創造の促進と円滑な流通を図る」ことを表明しました。また、この実現に向け、「デジタル化」、「ネットワーク化」、「グローバル化」に関する課題に取り組むと共に、これらの課題解決に向け、同党の理解と支援を要請しました。

引き続き、個別の課題についての理解を深めるため、①「デジ



タル化」の課題として私的録音補償金の問題を(社)日本音楽著作権協会吉田茂理事長が、②「ネットワーク化」の課題としてIPマルチキャスト放送における権利問題を(社)日本芸能実演家団体協議会大林丈史専務理事が、そして、③「グローバル化」の課題として保護期間延長の問題を(社)音楽出版社協会朝妻一郎会長が、それぞれ現状の議論と望まれる対応についての説明を行いました。

その後、質疑応答や意見交換が行われ、公明党から「この日行われた要請の内容については、日本における文化の多様性が必要であるとの認識に立ち、文化芸術と知的財産を尊重する観点から取り組みを推進したい」との意向が表明され、要請懇談会を終了しました。

公明党に提出した音楽関係10団体の要望書の内容

要 望 書

私たち音楽関係10団体は、音楽CDにおける再販制度擁護と、音楽産業が直面する課題解決に向けた取り組みを行っております。
つきましては、公明党の先生方のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

【要望事項】

- 音楽用CDの再販売価格維持制度の擁護に対するご支援をお願いいたします。
2月20日、知的財産戦略本部コンテンツ専門調査会の「デジタルコンテンツの振興戦略」の中で「音楽用CDにおける再販制度の見直し」が提言されました。これに対し、音楽関係10団体は、再販制度は我が国文化政策の根幹をなす極めて重要な制度で、音楽文化の発展に大きく寄与しており、音楽用CDの再販制度見直しに関する提言の全文削除を求める緊急声明を行いました。
- IT社会における音楽産業の課題解決に向けご理解とご支援をお願いいたします。
(1) デジタル化により生じている大量のコピー（私的録音）の問題に対応するため、私的録音補償金制度の見直し等の措置が必要であります。
(2) ネットワーク化の進展に対応し著作物の円滑な流通を促進していくためには、許諾権から報酬請求権への権利切下げによるのではなく、集中管理体制の整備による許諾手続きの一元化により対応することが適切であります。
(3) 著作物の流通のグローバル化（国際化）に対応するためには、諸外国との権利保護水準の調和が必要であり、そのためには著作権及び著作隣接権の保護期間を70年に延長することが必要であります。

以上

【音楽関係10団体】

(社)日本音楽著作権協会、(社)日本芸能実演家団体協議会、(社)日本レコード協会、(社)日本音楽事業者協会、(社)音楽出版社協会、(社)音楽制作者連盟、(社)日本歌手協会、日本音楽作家団体協議会、日本レコード商業組合、全国レコード卸同業会

【要請懇談会出席議員他(敬称略)】

太田昭宏(幹事長代行)、井上義久(政調会長)、山口那津男(政調会長代理)、斉藤鉄夫(政調副会長・文部科学部会顧問)、池坊保子(文部科学部会長代理)、遠藤乙彦(文部科学部会副会長)、山本保(文部科学部会副会長)、浜田昌良(経済産業部会長代理)、浮島とも子(文部科学部会員)、団体渉外委員会 山岸順次(部長)および関係議員秘書多数

公正取引委員会へ再販制度弾力運用報告書を提出

4月10日、当協会はレコード会社による再販制度の弾力運用と流通改善状況について、「音楽用CD等の再販制度の弾力運用の状況について」(2005年12月31日現在)として取りまとめ、公正取引委員会に提出しました。

以下が同報告書の内容です。

公正取引委員会 御中

音楽用CD等の再販制度の弾力運用の状況について

社団法人日本レコード協会

貴委員会は、2001年3月23日、「著作物再販制度」について「当面同制度を存置することが相当である」との結論を出され、同時に、関係業界に対し、現行制度の下で可能な限り運用の弾力化等の取り組みを進め、消費者利益の向上が図られるよう、非再販商品の発行・流通の拡大、各種割引制度の導入等による価格設定の多様化等の取り組みを要請されました。

レコード業界各社は、レコード盤、音楽用CD、音楽用テープ(以下、「音楽用CD等」という)の再販制度の弾力運用に関して、1992年4月以降自主的かつ前向きに取り組み、市販されるすべての音楽用CD等に発売日から2年間の時限再販制度を完全導入しました。

次いで、1998年3月に貴委員会より要請された6項目、すなわち①時限再販・部分再販等再販制度の運用の弾力化、②各種の割引制度の導入等価格設定の多様化、③再販制

度の利用・態様についての発行者の自主性の確保、④サービス券の提供等小売業者の消費者に対する販売促進手段の確保、⑤通信販売、直販等流通ルートが多様化およびこれに対応した価格設定の多様化、⑥円滑・合理的な流通を図るための取引関係の明確化・透明化その他取引慣行上の弊害の是正、についても一貫して積極的に取り組んでおります。

以下に、2005年12月31日時点における著作物再販制度の弾力運用、および流通改善のためのレコード業界の取組状況をご報告いたします[前回ご報告(2005年2月23日)]。

レコード業界は、音楽用CD等の再販制度について国民から引き続き理解が得られるよう、今後も消費者利益の向上を目指し、音楽用CD等の企画の多様性の確保、流通の合理化などの改善に積極的に取り組んでまいります。

音楽用CD等の再販制度に関する弾力的な運用と流通改善について

1. 時限再販・部分再販等再販制度の運用の弾力化

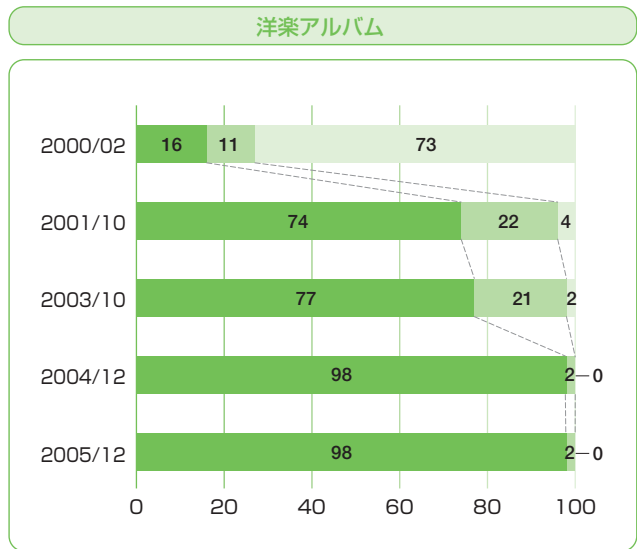
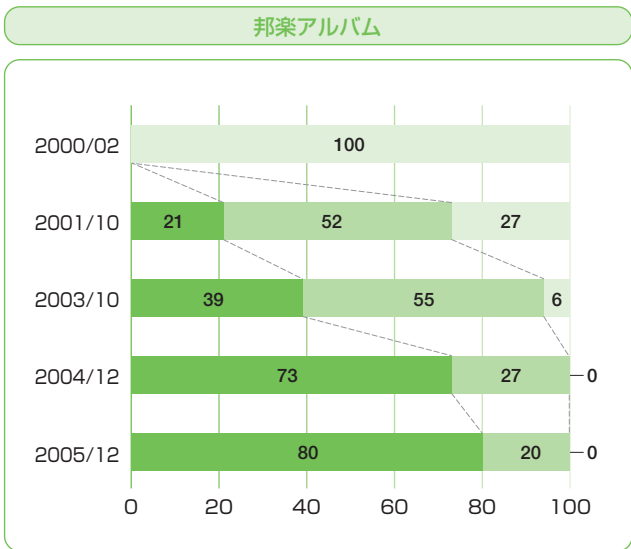
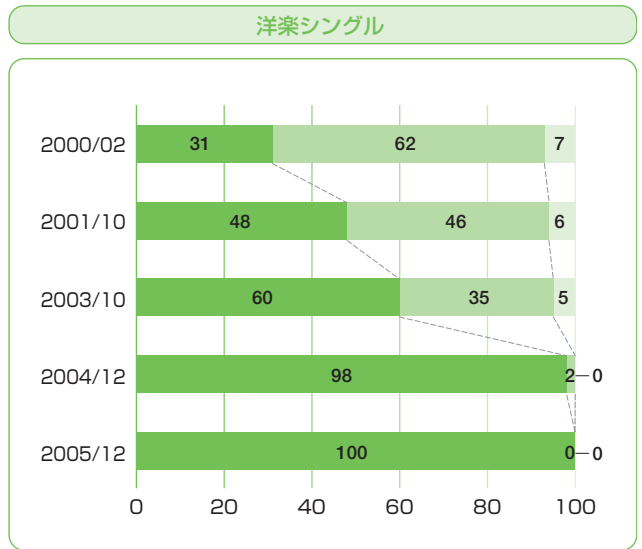
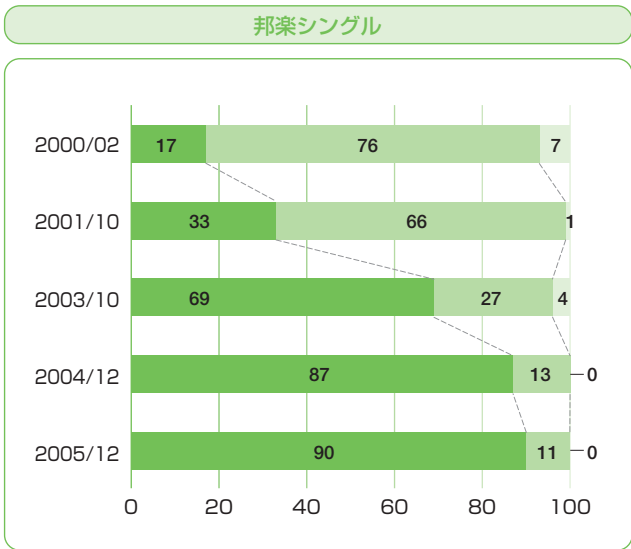
①時限再販期間の短縮について

レコードメーカー各社は、貴委員会よりの要請を受け、1998年以降時限再販期間の更なる短縮に取り組み、同年11月以降発売された商品から、いわゆるシングル盤(邦楽、洋楽)および洋楽アルバムを中心として、従前発行後2年であった時限再販期間を1年または6カ月に短縮してきた。その結果、出荷数量シェアでみた場合、時限再販期間6カ月の商品は、邦楽シングル、洋楽シングル・アルバムで90%以上を占めている。

また、売り上げの多くを占める邦楽アルバムについても、2001年以降多くのレコードメーカーが、時限再販期間を1年に短縮し、さらに、2003年から2005年にかけて6カ月に短縮する動きが活発化した。時限再販期間6カ月の商品の出荷数量シェアは、2005年12月末時点で80%以上に達している。

なお、時限再販期間6カ月の商品のシェアについて、当面存置の結論が出される前の2000年と直近2005年を比較すると、邦楽シングルは17%から90%(約5倍)、邦楽アルバムは0%から80%に拡大している。同様に、洋

■ 再販期間別シェア



■ ～6ヵ月 ■ ～1年 ■ ～2年

邦楽シングルは31%から100%（約3倍）、洋楽アルバムは16%から98%（約6倍）と、洋楽については、2004年時点から既にほとんどの商品が6ヵ月となっている。

② 時限再販期間経過後商品の値引き販売について

1998年以降、大手レコード店をはじめ地域専門店において、レコードメーカーの協力により実施されている。なお、レコードメーカーは、時限再販期間経過後商品の値引き販売について、営業施策の一環として販売店と協力し柔軟に対応しており、時限再販期間経過後商品の店頭値引きセールは年々拡大してきている。

③ インターネット廃盤セールの実施

レコード業界では、1992年度から年1回「廃盤セール」を開催してきたが、2001年度からは、全国の音楽ファンに伝えるため、それまでの会場を使っの即売会方式からインターネットを利用した販売方式に変更、さらに、2004年度からは年2回開催し好評を得ている（2005年度の開催概要は以下の通り）。

名称：レコードファン感謝祭2005～廃盤CD特別謝恩セール～
 日程：第1回 2005年10月28日（金）～11月11日（金）15日間
 第2回 2006年1月27日（金）～2月10日（金）15日間

出品商品：第1回 種類2,000タイトル、総数4万枚
 第2回 種類2,000タイトル、総数7万枚
 合計 種類4,000タイトル、総数11万枚

いずれも、廃盤は発売時定価の70%引きで販売。
 (http://fair.jmd.ne.jp)

④非再販商品の発売について

非再販商品は、2000年以降、洋楽のポピュラー、クラシック等のアルバムにはじまり、邦楽アルバムについても、2001年以降、各社から順次発売されている。この他に、通販・訪販商品、特販商品、インディーズ商品等も非再販商品として広く発売されている。

なお、2004年6月30日に開催された第4回著作物再販協議会において、貴委員会から『最近、音楽用CDとDVDビデオなど、再販対象商品と非対象商品がセットで売られるのがみられるが、非対象商品を含めて再販契約の対象とすることは原則として独占禁止法上問題となる』との指摘を受けた点について、当協会から加盟各社に対し、関係取引先を含めた周知徹底と適切な対処を要請した。各社は、当該商品が非再販商品であることを理解し、新たに発売する商品から適切な表示を行っている。

また、当協会は、1987年からその年最もヒットしたレコードを顕彰するため、レコードメーカーの協力を得て「日本ゴールドディスク大賞」を実施しており、2001年度からは受賞曲を収録したコンピレーションアルバムも発売し人気を博している。そして、2003年度からは当該アルバムを非再販商品として発売（商品内容は以下の通り）、2005年度も2006年3月1日に邦楽・洋楽各1タイトル（計2タイトル）を発売した（邦洋ともそれぞれ13曲収録・税込2,548円）。

- 2003年度
2004年4月14日発売（2枚組・23曲収録、税込3,150円）
- 2004年度
2005年3月9日発売（16曲収録、税込2,600円）

■ 参考

表1 非再販CDの発売タイトル数

| | タイトル数 | 累計 |
|----------------|-------|-------|
| 2000.5~2003.12 | 348 | 348 |
| 2004.1~12 | 364 | 712 |
| 2005.1~12 | 933 | 1,645 |

表2 CD+DVD商品の発売タイトル数

| | タイトル数 | 累計 |
|-----------|-------|-------|
| 2003.1~12 | 163 | 163 |
| 2004.1~12 | 589 | 752 |
| 2005.1~12 | 710 | 1,462 |

2005年は非再販CDとCD+DVD商品合計で1,643タイトルが非再販で発売されており、全CD新譜16,908タイトルの10%を占めている。

なお、CD+DVD商品は、大型ヒット作品でも多く発売されており、2005年ミリオン認定12タイトルの内、4タイトル^(注)がCD+DVD商品で発売されている。

注：EXILE「PERFECT BEST」

倭田来未「BEST~first things~」

サザンオールスターズ「キラーストリート」

平井 堅「Ken Hirai 10th Anniversary Complete Single Collection '95-'05 “歌バカ”」

⑤価格表示方法の変更について

消費者および関係業界において、商品が非再販となっているか否かを認知しやすくするため、2001年4月以降、時限再販期間や非再販商品として発行する商品の価格の表示方法を変更した。

具体的には、これまでCDの表示に関する業界推奨規格をまとめた日本レコード協会規格「RIS204／オーディオCDの表示事項及び表示方法」では、時限再販期間に関して「再販価格適用期限を発売日の表示に近接した位置に記載する」と規定していたが、2001年3月19日付けでこれを「再販価格適用期限を定価の表示に近接した位

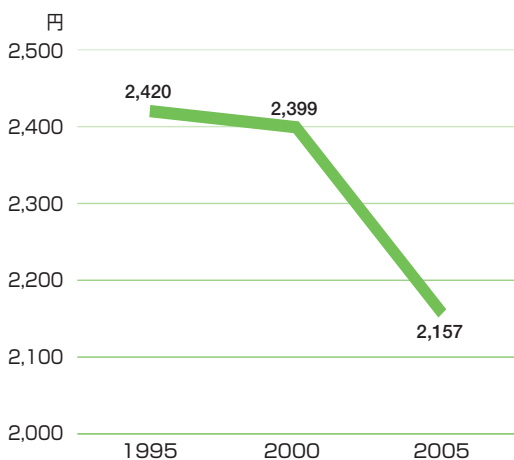
置に記載する」と改正した。この改正に併せて、同規格に価格表示推奨例を例示することとし、再販商品の価格表示推奨例と非再販商品の価格表示方法についての「希望小売価格」「標準価格」等の文言を使用した推奨例を例示した。

さらに、2003年3月の消費税法の改正（2004年4月から施行）で、商品等に価格を表示する場合、消費税も含めた総額を表示することが義務付けられたことにより、推奨例中に総額表示に対応しない例が生じたため、同年4月、非再販商品の価格表示推奨例を改正し、「希望小売価格」「標準価格」等の文言を使用するのではなく、総額表示に準拠した例示に改めた。

2. 各種割引制度の導入等価格設定の多様化

- ①各レコードメーカーは、音楽文化の発展・育成に協力していると考えられる公立図書館、学校等が時限再販期間内の音楽用CD等を購入する場合、販売店が独自の価格設定もできるよう対応している。
- ②各レコードメーカーは、販売施策の一環として、販売店が大量一括購入する場合等における価格設定（リベートを含む）の多様化に取り組んでおり、販売店におけるプライスオフセール等の消費者サービスに協力している。

12cm CDアルバム税込平均小売価格推移*



*生産金額（一般市販）÷仕切率73%÷数量+消費税3→5%（1997.4～）

- ③設定される価格は、低価格化が進んでおり、多様化もさらに図られている。

アルバムの年間平均小売価格は、2001年の当面存置決定当時は2,399円であったが、直近では2,157円と約10%値下がっている。

また、設定価格の多様化では、例えば、シングルでは500円以下・アルバムでは2,000円以下の商品、特典を付けたCDの価格据え置き商品、6～10枚組3,000円など複数枚組で価格据え置き商品の発売など割安感のある商品の発売や、新人の低価格商品、期間限定低価格商品、クラシック・ジャズ等の低価格シリーズ等、多種多様な設定が行われている。

3. 再販制度の利用・態様についての発行者の自主性の確保

再販制度の利用については、従来からレコードメーカー各社が自らの判断で決定しており、今後も同様である。

4. サービス券の提供等消費者に対する販売促進手段の確保

販売店は1979年の貴委員会の指導もあって、サービス券・ポイントカード等の利用を値引きという考えではなく、消費者サービスの一環として実施していた。その後貴委員会は「サービス券等は景品ではなく値引き」との見解を出されたが、レコードメーカーは、既に消費者へのサービス提供の手段として定着しているとして販売店の自主性を尊重している。

今後もサービス券・ポイントカード等の実施店はさらに増加していくものと予想される。

5. 通信販売・直販等流通ルートが多様化およびこれに対応した価格設定の多様化

- ①インターネット利用による音楽用CD等の通信販売事業等
インターネット専門の通信販売事業者に加え、実店舗を有するレコード販売業者も、販路拡大の一施策として、インターネットを利用した音楽用CD等の通信販売事業を積極的に展開している。

また、各レコードメーカーは、流通ルートの多様化の一環および販売店の役割を補完するものとして、自社内に専門部署を設けるなど従来にも増して通信販売に力を入れており、ホームページ等を通じて販売店では手に入りにくい市販商品（アナログ盤や輸入盤等を含む）や通信販売向け商品（BOXセット商品等）の開発にも取り組んでおり、消費者の商品選択肢の多様化を図っている。

加えて、各レコードメーカーは、商品特性に合わせた新たな販売チャネルの開拓（異業種とのコラボレーション等）を強化しており、消費者の購入利便性の増大にも取り組んでいる。

②有料音楽配信事業

2005年は、配信元年といわれ、消費者の新しい音楽の楽しみ方として有料音楽配信市場が本格的に立ち上がってきた。

レコード協会は、有料音楽配信市場の実態を広く理解してもらうため、統計データの収集および公表（四半期毎）を開始した。

なお、2005年の販売金額は343億円で、2004年の年間推定値との比較で229%となり、今後の更なる拡大が期待されている。

6. 円滑・合理的な流通を図るための取引関係の明確化・透明化その他取引慣行上の弊害の是正

取引関係に関する特段の弊害は現在ないと認識している。

7. その他

①1万円で1万500円分の「音楽ギフトカード」が買える

音楽ファン感謝キャンペーンの実施

レコードメーカー各社等が出資しているジャパン・ミュージック・ギフトカード社は、当協会の協力の下、1999年4月から毎年、1万500円分の「音楽ギフトカード」

を1万円で販売する音楽ファン感謝キャンペーンを実施しており、2005年も11月に発行部数3万セット（3億円分）限定で実施した。今後も適宜、実施して行く予定である。

②CD音源の無料試聴サービス

インターネットの普及拡大に伴い、レコードメーカー各社は自社のホームページを利用して、プロモーションを目的にCD音源の無料試聴サービスを実施している。

また、販売店においても、高速大容量配信ネットワーク型の音楽検索試聴システムの導入が急速に進展し、現在1,600店に8,200端末（昨年報告時は1,200店、6,800端末）が設置され、バーコード検索により162万曲（同140万曲）の試聴が可能となっており、消費者の利便性が図られるとともにCDの販売促進にも繋がっている。

③販売店のPOSシステム支援用として、商品カタログのテキストデータの提供（契約会社に対する有料サービス「れこーどばん」）を行ってきたが、2001年9月からは、「れこーどばん」に各商品の収録曲目を追加する等より充実した内容のデータ提供を可能とした「新れこーどばん（eCATS）」^注のサービス（228万曲）を行っている。

注：「新れこーどばん（eCATS）」は、当協会加盟レコードメーカーの賛同、協力を得て設立された「株式会社ジャパンミュージックデータ」（jmd）（資本金・1億円、2000年6月1日設立）が開発・運用しており、jmdは「デジタル試聴音源データベース」などの開発・運用も行っている。

④レコードメーカーが共同で受注・物流会社を設立しており、従前から、効率的・合理的に物流業務を行っている。また、販売店からの注文に対しては、原則として注文日の翌日に全国のレコード店に配達するシステムが構築されている。

■ 時限再販期間 (参考資料)

| 邦楽アルバム | | | | | | |
|------------|-------------|-----|-----|-------------|-----|-----|
| 会社名 | 2004年12月末時点 | | | 2005年12月末時点 | | |
| | ~6カ月 | ~1年 | ~2年 | ~6カ月 | ~1年 | ~2年 |
| 正会員 | | | | | | |
| C | | ○ | | | ○ | |
| V | ○ | | | ○ | | |
| K | ○ | | | ○ | | |
| TE | | ○ | | | ○ | |
| UM | ○ | | | ○ | | |
| TO | | ○ | | ○ | | |
| CR | | ○ | | | ○ | |
| TJC | | ○ | | | ○ | |
| SME | ○ | | | ○ | | |
| PC | ○ | | | ○ | | |
| WJ | ○ | | | ○ | | |
| VAP | ○ | | | ○ | | |
| BMG | | ○ | | | ○ | |
| GN | | ○ | | ○ | | |
| BG | | ○ | | | ○ | |
| AMC | ○ | | | ○ | | |
| PAR | ○ | | | ○ | | |
| FL | | ○ | | | ○ | |
| YC | | | ○ | | ○ | |
| DRM | ○ | | | ○ | | |
| 準会員 | | | | | | |
| JE | | ○ | | | ○ | |
| RR | ○ | | | ○ | | |
| IVY | ・ | | | ・ | | |
| LDK | ○ | | | ○ | | |
| KME | ○ | | | ○ | | |
| 会員数計 | 14 | 10 | 1 | 16 | 9 | 0 |

| 洋楽アルバム | | | | | | |
|------------|-------------|-----|-----|-------------|-----|-----|
| 会社名 | 2004年12月末時点 | | | 2005年12月末時点 | | |
| | ~6カ月 | ~1年 | ~2年 | ~6カ月 | ~1年 | ~2年 |
| 正会員 | | | | | | |
| C | | ○ | | | ○ | |
| V | ○ | | | ○ | | |
| K | ○ | | | ○ | | |
| TE | | ○ | | | ○ | |
| UM | ○ | | | ○ | | |
| TO | ○ | | | ○ | | |
| CR | | ○ | | | ○ | |
| TJC | | ○ | | | ○ | |
| SME | ○ | | | ○ | | |
| PC | ○ | | | ○ | | |
| WJ | ○ | | | ○ | | |
| VAP | ○ | | | ○ | | |
| BMG | ○ | | | ○ | | |
| GN | ○ | | | ○ | | |
| BG | | ○ | | | ○ | |
| AMC | ○ | | | ○ | | |
| PAR | ○ | | | ○ | | |
| FL | | ○ | | | ○ | |
| YC | ○ | | | ○ | | |
| DRM | — | | | — | | |
| 準会員 | | | | | | |
| JE | — | | | — | | |
| RR | ○ | | | ○ | | |
| IVY | ・ | | | ・ | | |
| LDK | ○ | | | ○ | | |
| KME | — | | | — | | |
| 会員数計 | 19 | 6 | 0 | 19 | 6 | 0 |

| 邦楽シングル | | | | | | |
|------------|-------------|-----|-----|-------------|-----|-----|
| 会社名 | 2004年12月末時点 | | | 2005年12月末時点 | | |
| | ~6カ月 | ~1年 | ~2年 | ~6カ月 | ~1年 | ~2年 |
| 正会員 | | | | | | |
| C | ○ | | | ○ | | |
| V | ○ | | | ○ | | |
| K | ○ | | | ○ | | |
| TE | ○ | | | ○ | | |
| UM | ○ | | | ○ | | |
| TO | ○ | | | ○ | | |
| CR | | ○ | | | ○ | |
| TJC | | ○ | | | ○ | |
| SME | ○ | | | ○ | | |
| PC | ○ | | | ○ | | |
| WJ | ○ | | | ○ | | |
| VAP | ○ | | | ○ | | |
| BMG | ○ | | | ○ | | |
| GN | ○ | | | ○ | | |
| BG | | ○ | | | ○ | |
| AMC | ○ | | | ○ | | |
| PAR | ○ | | | ○ | | |
| FL | | ○ | | | ○ | |
| YC | | | ○ | ○ | | |
| DRM | ○ | | | ○ | | |
| 準会員 | | | | | | |
| JE | | ○ | | | ○ | |
| RR | ○ | | | ○ | | |
| IVY | ・ | | | ・ | | |
| LDK | ○ | | | ○ | | |
| KME | ○ | | | ○ | | |
| 会員数計 | 19 | 5 | 1 | 20 | 5 | 0 |

| 洋楽シングル | | | | | | |
|------------|-------------|-----|-----|-------------|-----|-----|
| 会社名 | 2004年12月末時点 | | | 2005年12月末時点 | | |
| | ~6カ月 | ~1年 | ~2年 | ~6カ月 | ~1年 | ~2年 |
| 正会員 | | | | | | |
| C | | ○ | | | ○ | |
| V | ○ | | | ○ | | |
| K | ○ | | | ○ | | |
| TE | ○ | | | ○ | | |
| UM | ○ | | | ○ | | |
| TO | ○ | | | ○ | | |
| CR | | ○ | | | ○ | |
| TJC | | ○ | | | ○ | |
| SME | ○ | | | ○ | | |
| PC | ○ | | | ○ | | |
| WJ | ○ | | | ○ | | |
| VAP | ○ | | | ○ | | |
| BMG | ○ | | | ○ | | |
| GN | ○ | | | ○ | | |
| BG | | ○ | | | ○ | |
| AMC | ○ | | | ○ | | |
| PAR | ○ | | | ○ | | |
| FL | | ○ | | | ○ | |
| YC | — | | | — | | |
| DRM | — | | | — | | |
| 準会員 | | | | | | |
| JE | — | | | — | | |
| RR | ○ | | | ○ | | |
| IVY | ・ | | | ・ | | |
| LDK | ○ | | | ○ | | |
| KME | — | | | — | | |
| 会員数計 | 20 | 5 | 0 | 20 | 5 | 0 |

平成18年度事業計画

平成18年度は、「総合力の発揮」「外部への働きかけの強化」および「運営基盤の整備」の3つを基本方針とし、事業を推進する。

まず、レコード産業の振興と事業環境の整備のため、「音楽用CDの再販制度の擁護」「有料音楽配信の認定制度導入とチャートの公表」「日本ゴールドディスク大賞の見直し」「アジア地域へのライセンス拡大支援」「歴史的音源のアーカイブ化の推進」および「産業広報活動の強化による業界イメージの向上」の6つを重点施策として事業を行う。

次に、レコード製作者の権利擁護・拡大と適正な運用を図るため、「集中管理事業の拡大」「二次使用料の放送実績分配への移行」「違法ファイル交換対策の強化」「デジタル環境下におけるレコード製作者の権利確保」および「貸レコード使用料の適正化」の5つに重点を置き事業を推進する。

事業活動

[1] レコードの普及に関すること

1. 音楽用CDの再販制度の擁護

再販制度の意義と必要性について広く国民に広報、PRする。他方、再販制度の弾力運用に引き続き努め、業界の取り組み姿勢に対する理解を深める。

2. 有料音楽配信の認定制度導入とチャートの公表

上期中に有料音楽配信のミリオンヒット等の認定と売上上位作品チャートの公表を開始する。

3. ゴールドディスク大賞の見直し

過去20回の成果を検証し、広く国民の支持が得られる斬新な音楽祭を目指し全面的な見直しを行う。

4. アジア地域へのライセンス拡大支援と海賊版対策

① 5月に上海で開催される第2回中国国際音像総合配給展で日本音楽をPRするほか、中国におけるレコード発行までの期間を短縮するため権利認証制度の運用の見直し等を中国行政当局に働きかけていく。

② 官民合同ミッション等への参画、CJマークの利用促進ならびにIFPI香港との連携拡大等により海賊版対策の強化と市場情報の収集を図る。

5. その他

- ① 「ミュージックギフトカード」の普及に協力する。
- ② “Music J-CIS” (Music Japan Copyright

Information Service)の構成団体として、音楽権利情報データベースを充実させユーザーへのサービスを拡大する。

[2] レコードに関する調査研究および統計に関すること

1. 各種統計の作成と発表

パッケージ商品および音楽配信に関する産業統計データについて、よりの確な集計・分析と迅速な公表を図る。

2. 音楽に関する消費者実態調査の実施

[3] 録音による芸術文化の保存に関すること

1. 歴史的音源のアーカイブ化の推進

歴史的資産である初期のレコード(SP盤等)の劣化、散逸の防止等のため、国の助成を得てアーカイブ化の準備を進める。

2. 文化庁芸術祭への協力

3. 日本プロ音楽録音賞の共催

[4] 著作権・著作隣接権等に関すること

1. デジタル環境下におけるレコード製作者の権利確保

① 私的録音問題の抜本的な検討

レコード製作者の立場から、私的録音の範囲、DRMと私的録音補償金の関係等多角的な検討を行い、文化審議会著作権分科会私的録音録画小委員会での検討に反映する。

② レコード保護期間の延長、レコード演奏権やレコード放送権の獲得などに向け、関係団体やIFPI等との連携を強化し、積極的に外部への働きかけを行う。

2. 違法ファイル交換対策の強化

① 違法な音楽ファイルを大量に、継続して公開する違法行為者に対し損害賠償請求等の法的措置を強化する。

② 音源特定技術により違法ファイルを特定する技術を完成させ、違法行為者に対しより強い警告メッセージを発信する。

③ 不正コピー、不正アップロード防止に向けた教育・啓発活動の継続と社会一般への認知、理解を得るためのキャンペーンを実施する。また、違法行為者に対する

法的措置も広く告知し、違法行為の抑止に繋げる。

[5] レコードに関する出版物の刊行等

レコード産業の理解促進と産業全体のイメージ向上を図るため、機関誌、ホームページ、プレスリリース等を活用して積極的に情報発信するとともに、社会貢献活動や文化活動についても広く広報を行う。

[6] レコード製作者に係る商業用レコードの二次使用料に関する権利行使の受任、総額の取り決めならびに徴収および分配

1. 二次使用料の放送実績分配への移行

放送局からの全曲報告、フィンガープリント技術を用いた音源捕捉の可能性等の検討および二次使用料分配規程の見直しなど、放送実績分配への移行に向けた具体的な推進計画を策定する。

2. 著作隣接権集中管理事業の拡大

放送番組のインターネットでの二次利用を促進するため、会員各社および関係団体と調整を行い、年度開始後できるだけ早い時期に、放送番組に係る送信可能化権集中管理事業を開始する。

[7] レコード製作者に係る商業用レコードの公衆への貸与に係る報酬等に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

1. 今年度も引き続き全国6カ所に20名の調査室長を配置し、レコードレンタル店でのレンタルルール遵守状況等の把握に努める。なお、業務のより一層の効率化を進め、年度末に仙台調査室を閉鎖し東京調査室に統合するとともに、調査室長19名の体制とする。

2. 音楽配信の普及を背景に、貸レコードの利用実態を踏まえ使用料の適正化を求めて協議を進める。

[8] 私的録音録画補償金に関する権利行使団体の構成員としての業務ならびにレコード製作者に係る当該補償金の分配

社団法人私的録音補償金管理協会(sarah)および社団法人私的録音録画補償金管理協会(SARVH)の構成団体として、私的録音録画補償金制度の円滑な運用を推進する。

[9] その他

1. 海外の団体等との連携

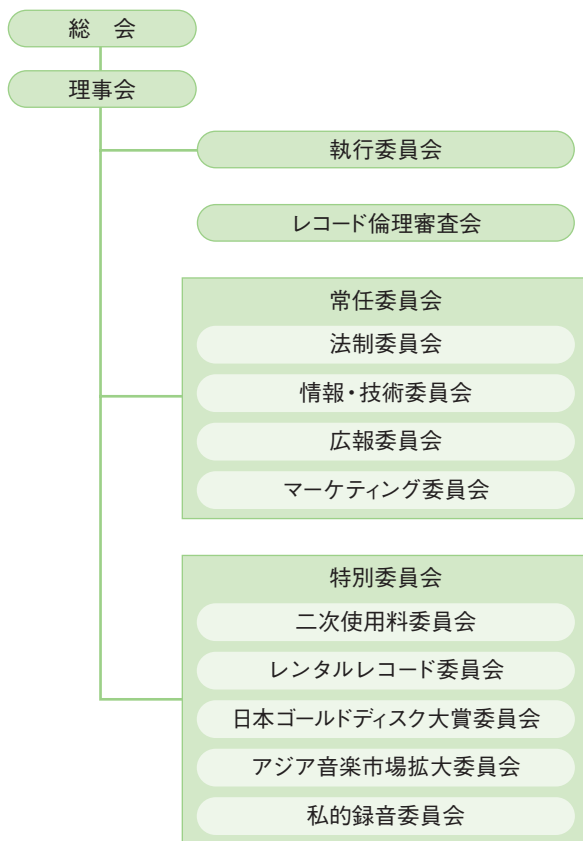
IFPI(国際レコード産業連盟)およびRIAA(アメリカレコード協会)等海外のレコード産業団体との連携および情報交換を積極的に推進する。

2. レコード倫理審査会の開催

3. 業界規格(RIS)の制定と改正

4. “ISRC”(International Standard Recording Code)管理機関としての活動

運営体制



本年度の事業遂行のため、関係諸官庁ならびに関係諸団体と常に連絡協調を保持しつつ業務を推進する。

以上

Topics & Information

当協会佐藤修会長、藍綬褒章を受章

平成18年度春の褒章において、当協会の佐藤修会長（株式会社ポニーキャニオン代表取締役会長）が藍綬褒章を受章しました。

佐藤会長は、昭和39年に日本ビクター株式会社に入社以来レコード産業一筋で活躍し、レコード会社の経営者として、レコード産業の振興のために数多くの功績を残してきました。また、当協会関係では、昭和63年の理事就任以降当協会の要職を歴任、平成16年9月からは当協会会長として、多方面にわたり音楽文化の発展に尽力してきました。

平成11年には、8年間にわたって貸レコード対策委員会委員長として、貸レコードに関してきめ細かなルール作りを行ったことが高く評価され、「著作権法百年記念特別功労者」として文部大臣表彰を受けました。

また、平成元年1月に就任した、当協会主催の日本ゴールドディスク大賞の実行委員会委員長を務めている間には、同イベントのTV放送の開始など、レコードの需要喚起を図ったほか、音楽レコードの還流防止措置が導入された昨年からは、アジアにおける日本の音楽作品のライセンス拡大に向けて、レコード産業の先頭に立って、諸施策への取り組みを行っています。

このようなレコードを通じた音楽産業の振興に対する多大な貢献が今回の受章につながったものと思われます。

なお、現職の当協会会長の褒章受章は、昭和44年秋の安藤穰会長以来2人目となります。

平成18年度早稲田大学寄付講座 「コンテンツ・ビジネスと著作権」開講

当協会による平成18年度早稲田大学寄付講座「コンテンツ・ビジネスと著作権」が、4月13日に開講しました。本講座は、日本の知的財産戦略の中で重要な役割を担うコンテンツ・ビジネスのひとつである音楽ビジネスに関心を持ってもらうことと、その基盤を支える著作権制度の重要性を理解してもらうことを目的とするものです。

今年で3年目を迎えるこの講座は、同大学の全学年全

学部（学生を対象に行われるもの（オープン科目）で、今年度は音楽を中心とした内容で前期のみに集中して実施されます。第1回目は、当協会の佐藤会長が「音楽ビジネス概論」についての講義を行いました。講義は、開始前に学生からのリクエストを受けその内容を盛り込んだり、円筒形のレコードやSP、LP盤を回覧しながら進められ、受講生は熱心に聴講していました。

授業後、受講生から学習意欲の高さが感じられる熱のこもった感想や質問が届けられました。

早稲田大学オープン教育センターによって設置されている本講座は、オープン科目の中でも全学生の関心が非常に高く、今年も329名の履修登録がありました。

IFPI、RIAA、RIAJ、リーガル・ミーティングを実施

4月4日、当協会において、IFPI（国際レコード産業連盟）のグローバル・リーガルポリシー担当シニア・バイス・プレジデント、シーラ・パールマッター氏、米国レコード協会（RIAA）の国際担当上級バイス・プレジデントのニール・ケウィッツ氏と、当協会からはユニバーサル ミュージック社の管理本部法務部マネージャーの田中健一氏、東芝EMI社の執行役員法務部長兼ライセンシングオフィス部長兼New Media Group担当部長の上山淳氏および専務理事の生野秀年、事務局長の高杉健二および法務部のスタッフが、日本のレコード産業が抱える法制上の諸課題について意見交換を行いました。

ミーティングでは、IPマルチキャスト放送の著作権法上の取り扱い、保護期間の延長、私的録音問題など、幅広いトピックについて率直な話し合いが行われました。

今後もIFPI、RIAAとRIAJとのコミュニケーションと連携を促進し、法制問題の対応について協力していくことが確認されました。

IFPI海賊対策担当者、文化庁と経産省を訪問

IFPIの香港事務所で執行活動に従事しているロドニー・ツ

イ氏が、IFPIとMPA(アメリカ映画協会)が共同で行った中国の海賊版実態調査についての状況を報告するために来日しました。

この調査は、今年の1～2月中旬にかけて北京・上海・深圳・広州の4都市で行われたもので、この調査を通じて日本レパートリーの海賊版が発見されました。

4月19日、同氏は日本のコンテンツの海外振興を促進している文化庁と経済産業省を訪問し、それぞれ、文化庁長官官房国際課海賊版対策専門官の田中健太郎氏と同課海外協力係長の榎野睦子氏、経済産業省商務情報政策局文化情報関連産業課課長補佐の青崎智行氏と同課技術係長の直井秀介氏と面談し、本調査の概要報告、IFPIの中国における海賊対策執行活動について報告し、意見交換を行いました。

また、同氏は、前日、当協会のアジア音楽市場拡大委員会にも参加し、委員会メンバーと今後の中国進出に向けて有用な情報交換を行いました。



IFPI ロドニー・ツイ氏

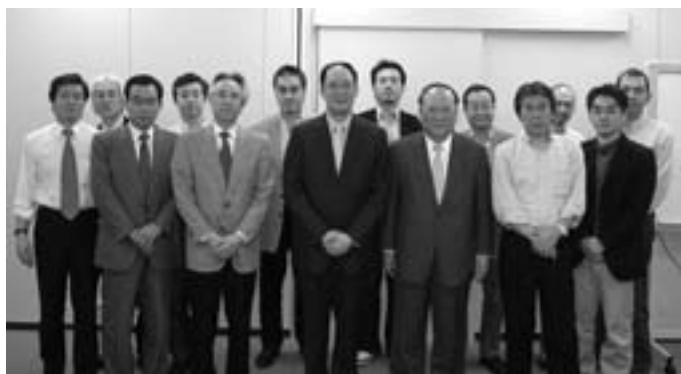
ル交換ソフトの違法ユーザーに対する活動の一環として行われているもので、今回で第5回目の発表となります。今回の訴訟提起は、オーストリア、デンマーク、フィンランド、ドイツ、香港、アイスランド、イタリア、ポルトガル、スウェーデンおよびスイスでファイル交換ソフトを利用した音楽ファイルを大量にアップロードしていた個人に対して行われました。訴訟の対象となった違法ユーザーの大半は20～35歳の男性で、未成年の違法利用については保護者の責任として、保護者に対して訴訟提起が行われた事例もあります。このキャンペーンでIFPIは、子供が家庭のコンピュータで行った違法行為に対して、保護者が責任を負う可能性があり、保護者の子供に対する教育・啓発の重要性を指摘しています。

「日本のレコード産業2006」発行

当協会はこの度、「日本のレコード産業2006」を発行しました。これは、2005年のレコード産業の概要を網羅したA4版28ページの小冊子です。

従来から掲載しているレコードの生産実績、新譜・カタログ数、ミリオンセラー、世界売上、輸出入統計などのレコード産業が概観できる資料に加え、今年からは新たに有料音楽配信の売上実績の掲載も開始しました。

日本語版、英語版ともに当協会ホームページでもPDF版がご覧いただけますので、ご活用ください。



ツイ氏(前列中央)とアジア音楽市場拡大委員会メンバー

IFPI、ファイル交換ソフトの違法ユーザーへの法的対応を発表

IFPIは4月4日、ファイル交換ソフトの違法ユーザーを相手取って10カ国で約2000件の訴訟が提起されたことを発表しました。

これは、2004年6月からIFPIが進めているファイ



日本語版



英語版

会員社のお知らせ

■社名変更（4月1日付）

新社名：株式会社ヴィレッジ ミュージック（賛助会員）
（旧（株）ヴィレッジ・レコード）

■移転（4月3日付）

株式会社ジェイ・ストーム（準会員）
新住所：150-0002
東京都渋谷区渋谷1-10-10 ミヤマスタワー2F

● 2006年4月会議メモ

- 4・5 マーケティング委員会
- 4・7 情報・技術委員会
- 4・10 レコード倫理審査会
- 4・11 法制委員会
- 4・12 広報委員会
- 4・18 アジア音楽市場拡大委員会
- 4・21 執行委員会
- 4・24 二次使用料委員会
- 4・28 理事会

お詫びと訂正

先月号5ページでお知らせした早稲田大学寄付講座の講師の社名に一部誤りがございました。正しくは株式会社シンコーミュージック・エンタテイメントでした。ここにお詫びして訂正いたします。

RIAJ Essay

■ 雑感：携帯電話～着うた～そして…

株式会社徳間ジャパンコミュニケーションズ 取締役 石本望美

電気通信事業者協会が3月末に発表したわが国の携帯電話の携帯電話契約者数は、9,200万人弱だとの事である。20年ほど前に携帯電話がサービスを開始した時には、これほどまでに普及し、多くの機能を持つとは誰が想像したであろうか。我々の業界としても10年前、携帯電話での音楽のダウンロード～「着うた」～など予想だにできなかった事だ。

3年ほど前に現れた「着うた」は若い年齢層を主として瞬く間に認知され、ダウンロード数は増え続けている。だが、「着うた」にアップロードされている全ての楽曲のダウンロードが増えているわけではない。今までのシングルと同様、「着うた」におけるメガヒットがあつてこそ、ダウンロード数が増えているのである。

嗜好性の強い音楽は、携帯電話の契約者数が増えたからといって「着うた」のダウンロード数が比例的に増えるものではない。楽曲をユーザーに届ける形態は変わっても、我々音楽制作に携わるメーカーが行うことには変わりはない。良い楽曲を作り出し、音楽ファンに届けるためのプロモーションを続けていくのみである。

この4月1日からはワンセグ、いわゆるモバイルによる番組視聴が本放送を迎えた。新しいプロモーションのフィールドをどのように使ってヒット曲を作り出していくのか、この業界にとっての新しい試みが始まる。

レコード産業をPRせよ。

—機関誌「THE RECORD」が生まれた時代

このコーナーでは、当協会に残る古い資料などをもとに、様々な逸話をご紹介します。

日本レコード協会が月刊の機関誌「THE RECORD」を創刊したのは、1956年(昭和31年)7月。当初は「RECORD」のみのタイトル表記であった。今年で実に、半世紀の歴史を経る。節目の年にあたり、産声をあげた当時を振り返り、どのような役割を期待されていたのか、改めて探りたい。

56年頃は、日本の高度成長時代の草創期として見る事ができる。戦後復興期を乗り越え、日本経済は神武景気の好況のうちにあった。レコード産業も、戦中・戦後の苦難の時代をしのぎ、SPからLPへの移行期に入って、活発な動きを見せている。55年から59年にかけて、メーカー各社は増資を図り、LP・EPの発売、ステレオ化への傾斜、資本系列化による業界再編、外国原盤確保などを推進していた。「太陽族」など目立つ流行もあり、社会に新鮮な文化を求める渴望があったのだろう。レコード産業がこうしたニーズを満たすことを期待され、実際に応えていったに違いない。戦前のレコード生産のピークを上回るのは、61年まで待たなければならないが、着実に好景気の波が、業界をとらえていた。

一方、レコード協会にも大きな変化が訪れていた。いくつもの会社が新加盟を果たす慌しい状況が続き、協会の事務は多忙を極めて

いた。業界に多様な課題が持ち上がり、協会としても対応を求められていた。機関誌は業界の諸問題を議論し、周知を求めるPRの一環として始まったと見てよい。当時就任間もない第二代・武藤正三会長の「発刊のことば」に、機関誌への大きな期待感が読み取れる。簡潔にまとめると「レコードは同形の製品でことさらPRを必要とし、各社はそれぞれ猛烈なPR競争を展開する。しかし業界としてのPRは、会社の活動とは一線を画する。テーマも多岐にわたり、読者も幅広い。どうPRするか困難な事業である。しかし、困難を覚悟して着手した。」となる。

当時から技術や著作権、フォーマットの移行(SPからLPへ)、放送局(ラジオ)との関係など、課題への取り組みをまとめ、伝えるという役割を果たしてきた。コンセプトが今とほぼ一貫していることは、驚くばかりである。今後も変わらず、連綿と受け継がれていくだろう。また後半に出てくる「読者各位におかれては、何卒この小さな「RECORD」のために、好意ある御支持、御鞭撻を賜りたい。」とのことばは、何とも初々しく、微笑ましい。この“初心”も是非これからの「RECORD」制作者に受け継ぎたいものである。



当協会に保管されている「RECORD」創刊号(B5サイズ、36ページ)

参考資料：

当協会「社団法人日本レコード協会五十年史～ある文化産業の歩いた道」

2006年3月度レコード生産実績

3月度の音楽ソフト(オーディオレコード・音楽ビデオの合計)生産実績は、先月に引き続き、オーディオレコード、音楽ビデオ共に好調で、数量で前年同月比132%の3,713万枚・巻、金額で同123%の442億円と大幅に伸ばしました。このうち、オーディオレコードは、数量で前年同月比125%の3,142万枚・巻、金額では同120%の370億円となりました。また、音楽ビデオは、数量で前年同月比182%の571万枚・巻、金額で同141%の73億円となりました。

● オーディオレコード

(数量:千枚・巻/金額:百万円)

| | | | 3月実績 | | | | | | 2006年(1月~3月)累計 | | | | | |
|----------------|--------|--------|-------|------|--------|-------|------|--------|----------------|------|--------|--------|------|-------|
| | | | 数量 | 構成比 | 前年同月比 | 金額 | 構成比 | 前年同月比 | 数量 | 構成比 | 前年同期比 | 金額 | 構成比 | 前年同期比 |
| シン | 8cmCD | 邦 | 17 | 0 | 36% | 10 | 0 | 67% | 464 | 1 | 129% | 54 | 0 | 82% |
| | | 洋 | 4 | 0 | 258% | 2 | 0 | 164% | 17 | 0 | 24% | 8 | 0 | 151% |
| | | 計 | 21 | 0 | 43% | 12 | 0 | 72% | 482 | 1 | 111% | 61 | 0 | 87% |
| ン | 12cmCD | 邦 | 6,473 | 21 | 173% | 4,328 | 12 | 146% | 17,316 | 22 | 134% | 12,648 | 14 | 132% |
| | | 洋 | 8 | 0 | 10% | 7 | 0 | 10% | 52 | 0 | 31% | 35 | 0 | 25% |
| | | 計 | 6,481 | 21 | 170% | 4,335 | 12 | 143% | 17,367 | 22 | 133% | 12,683 | 14 | 130% |
| ル | 小計 | 邦 | 6,490 | 21 | 172% | 4,338 | 12 | 146% | 17,780 | 23 | 134% | 12,702 | 14 | 132% |
| | | 洋 | 12 | 0 | 15% | 8 | 0 | 12% | 69 | 0 | 29% | 42 | 0 | 29% |
| | | 計 | 6,502 | 21 | 168% | 4,347 | 12 | 143% | 17,849 | 23 | 132% | 12,744 | 14 | 130% |
| 12cmCD アルバム | 邦 | 14,985 | 48 | 107% | 23,274 | 63 | 124% | 36,893 | 48 | 102% | 55,412 | 61 | 108% | |
| | 洋 | 9,325 | 30 | 145% | 8,808 | 24 | 106% | 20,628 | 27 | 118% | 21,318 | 23 | 94% | |
| | 計 | 24,310 | 77 | 119% | 32,082 | 87 | 119% | 57,520 | 74 | 107% | 76,730 | 84 | 104% | |
| CD 合計 | 邦 | 21,475 | 68 | 120% | 27,612 | 75 | 127% | 54,673 | 71 | 111% | 68,114 | 75 | 111% | |
| | 洋 | 9,337 | 30 | 143% | 8,816 | 24 | 105% | 20,697 | 27 | 117% | 21,360 | 23 | 94% | |
| | 計 | 30,812 | 98 | 127% | 36,428 | 99 | 121% | 75,370 | 98 | 112% | 89,474 | 98 | 107% | |
| アナログ ディスク | 邦 | 21 | 0 | 328% | 25 | 0 | 292% | 42 | 0 | 69% | 46 | 0 | 54% | |
| | 洋 | 12 | 0 | 127% | 10 | 0 | 97% | 20 | 0 | 134% | 19 | 0 | 99% | |
| | 計 | 32 | 0 | 209% | 35 | 0 | 185% | 61 | 0 | 82% | 65 | 0 | 62% | |
| カセット テープ | 邦 | 538 | 2 | 88% | 432 | 1 | 88% | 1,732 | 2 | 91% | 1,433 | 2 | 91% | |
| | 洋 | 1 | 0 | 83% | 0 | 0 | 68% | 1 | 0 | 5% | 1 | 0 | 6% | |
| | 計 | 539 | 2 | 88% | 432 | 1 | 88% | 1,733 | 2 | 90% | 1,434 | 2 | 90% | |
| その他 | 邦 | 23 | 0 | 39% | 44 | 0 | 34% | 45 | 0 | 67% | 84 | 0 | 58% | |
| | 洋 | 15 | 0 | 74% | 25 | 0 | 69% | 33 | 0 | 67% | 61 | 0 | 62% | |
| | 計 | 38 | 0 | 48% | 68 | 0 | 41% | 78 | 0 | 67% | 144 | 0 | 60% | |
| 合計 | 邦 | 22,057 | 70 | 119% | 28,113 | 76 | 126% | 56,492 | 73 | 110% | 69,676 | 76 | 111% | |
| | 洋 | 9,364 | 30 | 143% | 8,851 | 24 | 105% | 20,751 | 27 | 117% | 21,441 | 24 | 94% | |
| | 計 | 31,421 | 100 | 125% | 36,964 | 100 | 120% | 77,242 | 100 | 112% | 91,117 | 100 | 106% | |

● 音楽ビデオ

| | | | 3月実績 | | | | | | 2006年(1月~3月)累計 | | | | | |
|-----------|---|-------|------|------|-------|-----|------|--------|----------------|------|--------|-----|------|-------|
| | | | 数量 | 構成比 | 前年同月比 | 金額 | 構成比 | 前年同月比 | 数量 | 構成比 | 前年同期比 | 金額 | 構成比 | 前年同期比 |
| DVD | 邦 | 5,265 | 92 | 205% | 6,517 | 90 | 154% | 13,265 | 91 | 187% | 13,155 | 86 | 143% | |
| | 洋 | 387 | 7 | 87% | 638 | 9 | 93% | 1,156 | 8 | 104% | 1,796 | 12 | 103% | |
| | 計 | 5,652 | 99 | 187% | 7,155 | 99 | 146% | 14,422 | 99 | 176% | 14,951 | 98 | 136% | |
| テープ・LDその他 | | 61 | 1 | 50% | 96 | 1 | 41% | 178 | 1 | 66% | 279 | 2 | 61% | |
| 合計 | 邦 | 5,326 | 93 | 198% | 6,611 | 91 | 148% | 13,436 | 92 | 182% | 13,426 | 88 | 139% | |
| | 洋 | 388 | 7 | 87% | 640 | 9 | 93% | 1,164 | 8 | 104% | 1,805 | 12 | 103% | |
| | 計 | 5,713 | 100 | 182% | 7,251 | 100 | 141% | 14,600 | 100 | 172% | 15,231 | 100 | 133% | |

● 音楽ソフト(オーディオ/音楽ビデオ合計)

| | | | 3月実績 | | | | | | 2006年(1月~3月)累計 | | | | | |
|-------|--|--|--------|-----|-------|--------|-----|-------|----------------|-----|-------|---------|-----|-------|
| | | | 数量 | 構成比 | 前年同月比 | 金額 | 構成比 | 前年同月比 | 数量 | 構成比 | 前年同期比 | 金額 | 構成比 | 前年同期比 |
| オーディオ | | | 31,421 | 85 | 125% | 36,964 | 84 | 120% | 77,242 | 84 | 112% | 91,117 | 86 | 106% |
| 音楽ビデオ | | | 5,713 | 15 | 182% | 7,251 | 16 | 141% | 14,600 | 16 | 172% | 15,231 | 14 | 133% |
| 合計 | | | 37,134 | 100 | 132% | 44,215 | 100 | 123% | 91,843 | 100 | 118% | 106,348 | 100 | 109% |

● ビデオ(含音楽ビデオ)

| | | | 3月実績 | | | | | | 2006年(1月~3月)累計 | | | | | |
|-----------|--|--|--------|-----|-------|--------|-----|-------|----------------|-----|-------|--------|-----|-------|
| | | | 数量 | 構成比 | 前年同月比 | 金額 | 構成比 | 前年同月比 | 数量 | 構成比 | 前年同期比 | 金額 | 構成比 | 前年同期比 |
| DVD | | | 12,733 | 99 | 126% | 17,112 | 98 | 117% | 31,243 | 99 | 117% | 42,800 | 98 | 112% |
| テープ・LDその他 | | | 149 | 1 | 44% | 313 | 2 | 26% | 433 | 1 | 46% | 992 | 2 | 31% |
| 合計 | | | 12,881 | 100 | 123% | 17,425 | 100 | 110% | 31,676 | 100 | 115% | 43,793 | 100 | 106% |

● オーディオ/ビデオ合計

| | | | 3月実績 | | | | | | 2006年(1月~3月)累計 | | | | | |
|-------|--|--|--------|-----|-------|--------|-----|-------|----------------|-----|-------|---------|-----|-------|
| | | | 数量 | 構成比 | 前年同月比 | 金額 | 構成比 | 前年同月比 | 数量 | 構成比 | 前年同期比 | 金額 | 構成比 | 前年同期比 |
| オーディオ | | | 31,421 | 71 | 125% | 36,964 | 68 | 120% | 77,242 | 71 | 112% | 91,117 | 68 | 106% |
| ビデオ | | | 12,881 | 29 | 123% | 17,425 | 32 | 110% | 31,676 | 29 | 115% | 43,793 | 32 | 106% |
| 合計 | | | 44,302 | 100 | 125% | 54,389 | 100 | 117% | 108,918 | 100 | 112% | 134,910 | 100 | 106% |

備考 1. 上記実績は、会員会社「42社」の集計である。当会員会社が受託した非会員会社からの販売委託分を含む。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。
※オーディオレコードのその他はSACD、DVDオーディオ、DVDミュージック、MDの合計。

Gold Album +... 認定

2006年3月度

2006年発売の新譜では、ミリオン2作品、トリプル・プラチナ2作品、ダブル・プラチナ1作品が認定されました。

邦楽

アルバム

| | | | | |
|-------------|---|--------------------------|------------|-----|
| ● ミリオン | BEST～second session～ | 倅田来未 | 2006.03.08 | AVT |
| ● トリプル・プラチナ | ASIA | EXILE | 2006.03.29 | AVT |
| | Best of KAT-TUN | KAT-TUN | 2006.03.22 | JA |
| ● ダブル・プラチナ | DREAMAGE(ドリマージュ) —DREAMS COME TRUE “LOVE BALLAD COLLECTION”— | DREAMS COME TRUE | 2003.12.17 | ES |
| ● プラチナ | ファンクラブ | ASIAN KUNG-FU GENERATION | 2006.03.15 | KS |
| | 綾小路きみまろ 爆笑スーパーライブ第2集! ～ガンバッテいただきたいの・・・～ | 綾小路きみまろ | 2006.01.25 | TE |
| | KJ1 F・T・O | 関ジャニ∞ | 2006.03.15 | TE |
| | CYCLE HIT 1991-1997 | スピッツ | 2006.03.25 | UM |
| | CYCLE HIT 1997-2005 | スピッツ | 2006.03.25 | UM |
| | & | 一青窈 | 2005.12.21 | C |
| | From To | 平原綾香 | 2005.11.02 | DRM |
| | 卒業TIME～僕らのはじまり～ | WaT | 2006.03.01 | UM |
| ● ゴールド | 「七色の落書き」 | Aqua Timez | 2006.04.05 | ES |
| | Coward | ENDLICHERI☆ENDLICHERI | 2006.03.01 | JE |
| | Circle | 木村カエラ | 2006.03.08 | C |
| | The New Beginning | ZEEBRA | 2006.02.15 | PC |
| | ALIVE | SOUL'd OUT | 2006.03.08 | SE |
| | Naked | SOULHEAD | 2006.03.08 | AI |
| | 4つのL | 平原綾香 | 2006.03.22 | DRM |
| | Natural | MINMI | 2006.03.29 | V |
| | Day by Day | MEGARYU | 2006.03.08 | AVT |

シングル

| | | | | |
|--------|------------------------|--------------|------------|-----|
| ● ミリオン | Real Face | KAT-TUN | 2006.03.22 | JA |
| ● プラチナ | I believe | 絢香 | 2006.02.01 | WJ |
| | サヤエンドウ／裸足のシンデレラボーイ | NEWS | 2006.03.15 | JE |
| | Startin'／Born To Be... | 浜崎あゆみ | 2006.03.08 | AVT |
| ● ゴールド | Faith／Pureyes | 伊藤由奈 | 2006.03.01 | SR |
| | YES! | EXILE | 2006.03.01 | AVT |
| | 音速パンチ | Cocco | 2006.02.22 | V |
| | マイペース | SunSet Swish | 2006.03.01 | SM |
| | 純恋歌 | 湘南乃風 | 2006.03.08 | TF |
| | ボクノート | スキマスイッチ | 2006.03.01 | BMG |
| | 一剣 | 氷川きよし | 2006.03.15 | C |
| | 太陽の下 | レミオロメン | 2006.03.01 | V |

ビデオ

| | | | | |
|------------|--|------------|------------|-----|
| ● ダブル・プラチナ | Real Face Film | KAT-TUN | 2006.03.22 | JA |
| ● ゴールド | LIVE TOUR 2005～PERFECT LIVE “ASIA”～ | EXILE | 2006.03.29 | AVT |
| | Excite!! | 関ジャニ∞ | 2005.03.30 | TE |
| | ケツの穴～中級編～ | ケツメイシ | 2006.03.08 | TF |
| | FILM KILLER STREET (Director's Cut) & LIVE at TOKYO DOME | サザンオールスターズ | 2006.03.15 | V |

洋楽

アルバム

| | | | | |
|--------|---|----------------|------------|-----|
| ● ゴールド | Whatever People Say I Am, That's What I'm Not | Arctic Monkeys | 2006.01.25 | HSE |
| | メイク・ビリーヴ | ウィーザー | 2005.05.11 | UM |
| | レット・ゴー | KIKI | 2005.12.07 | TO |
| | ADDICTED | sweetbox | 2006.03.01 | AVT |
| | イン・マイ・オウン・ワーズ | Ne-Yo | 2006.03.01 | UM |
| | ザ・ブレイクスルー | メアリー・J. ブライジ | 2006.01.13 | UM |
| | 姫トランス | VARIOUS | 2006.01.25 | TO |

※AI: ソニー・ミュージックアソシエイテッドレコーズ / AVT: エイベックス・エンタテインメント / BG: ビーグラムレコーズ / BM: バーミリオンレコード / BMG: BMG JAPAN / C: コロムビアミュージックエンタテインメント / CR: 日本クラウン / DF: デフスターレコーズ / DRM: ドリーミュージック / EP: アップフロントワークス(セティマレーベル) / ES: EPICレコードジャパン / FK: ファイブズエンタテインメント / FL: フォーライフミュージックエンタテインメント / GN: ジェネオン エンタテインメント / GZ: ギザ / HSE: Hostess Entertainment Unlimited / JA: ジェイ・ストーム / JE: ジャニーズ・エンタテインメント / JK: ユナイテッド・アジアエンターテインメント / K: キングレコード / KS: キュンレコード / MC: ミューチャー・コミュニケーションズ / MH: ソニー・ミュージックダイレクト / ON: ビーヴィジョン / PAR: プライエイド・レコーズ / PC: ボニーキャニオン / PK: ピッコロタウン / PZ: ピザ・オブ・デス・レコーズ / QQ: パームビーチ / RR: ロードランナー・ジャパン / SE: エスエムイーレコーズ / SI: ソニー・ミュージックパンタナショナル / SM: ミュージックレイン / SN: SENHA & CO. / SR: ソニー・ミュージックレコーズ / SV: アニプレックス / TE: テイチクエンタテインメント / TF: トイズファクトリー / TJC: 徳間ジャパンコミュニケーションズ / TO: 東芝EMI / UM: ユニバーサルミュージック / V: ビクターエンタテインメント / WJ: ワーナーミュージック・ジャパン / XL: アンリミテッドグループ / YR: アール・アンド・シー



BEST～second session～/倅田来未



Real Face/KAT-TUN



ASIA/EXILE



Best of KAT-TUN/KAT-TUN



DREAMAGE(ドリマージュ)-DREAMS COME TRUE
“LOVE BALLAD COLLECTION”-/DREAMS COME TRUE



Real Face Film/KAT-TUN

※ダブル・プラチナ(50万枚)以上の認定を受けた作品のジャケット写真を紹介します。

■■■■■ 協会からのお知らせ ■■■■■

Topics & Informationでもお知らせしましたが、当協会は「日本のレコード産業2006」を発行しました。日本語版、英語版とも当協会ホームページでもご覧いただけます。ぜひご利用ください。



古紙配合率100%再生紙を使用しています

THE RECORD No.558 2006年5月号
社団法人 日本レコード協会 機関誌

発行人 佐藤 修
 編集人 田辺 攻
 発行日 2006年5月10日
 発行 社団法人 日本レコード協会
 〒107-0061 東京都港区北青山2-12-16 北青山吉川ビル11F
 TEL. 03-6406-0510(代) FAX. 03-6406-0520(代)
 URL: <http://www.riaj.or.jp/>

制作協力 株式会社エフビーアイ・コミュニケーションズ

編集後記

今回も読者アンケートで協力ありがとうございました。貴重なご意見多数頂きました。特に今回は毎号隅々まで読まれた上でのご意見が多く、心より感謝申し上げます。インターネットの時代においても本誌の持つ変わらぬ重要性があります。読者層が幅広く難しい面もありますが、少しずつでもしっかり誌面に反映させて頂きたいと考えます。そして、「THE RECORD」はこの7月で創刊50周年を迎えます。(S)